

自然体験等が子どもに与える影響に関する資料

第3節 子ども・若者の体験活動

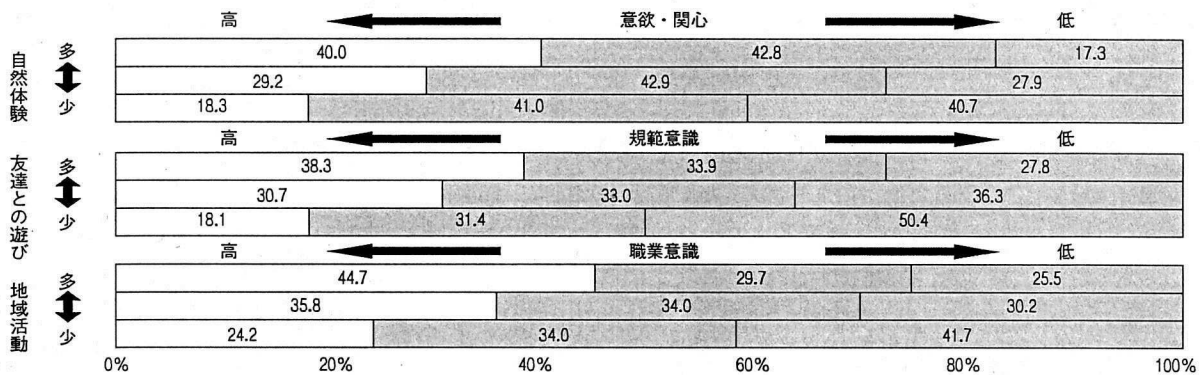
1 子ども・若者の体験活動の現状

自然体験活動をする機会の多い子ども・若者は、道徳観や正義感、自律性や積極性や協調性が身に付いている者が多い（独立行政法人国立青少年教育振興機構『「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」報告書 平成17年度調査』、『「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」報告書 平成18年度調査』）。また子どもの頃の体験が豊富な大人ほど、意欲や規範意識が高い人が多い傾向にある。したがって、自然体験等子ども・若者の体験活動の推進をして

いくことが重要である（第1-1-22図）。

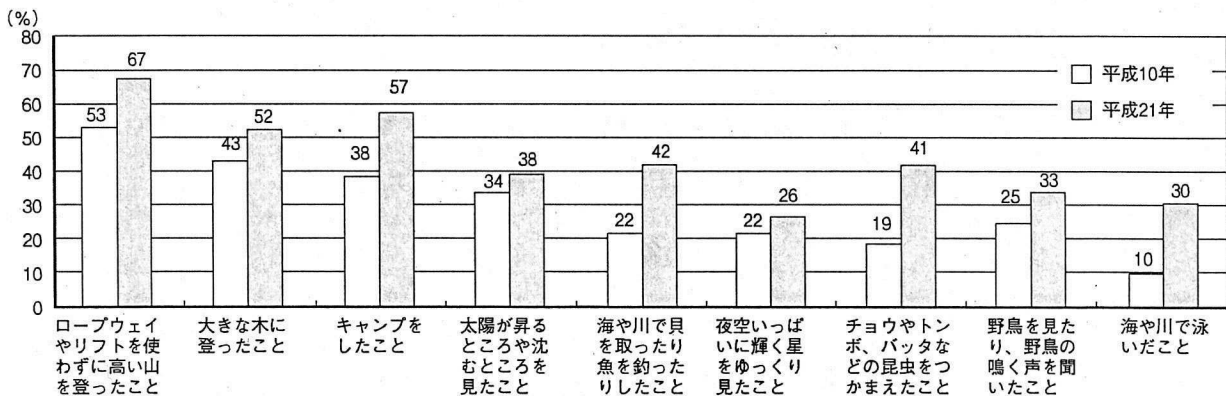
しかし、『「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」報告書 平成21年度調査』によると、学校以外の公的機関や民間団体等が行う自然体験活動への小学生の参加状況は、54.7%であり、平成18年度の63.2%に比べ減少している。個々の体験活動についても、「キャンプをしたこと」や「海や川で泳いだこと」等の自然体験について、ほとんどしたことがない子ども・若者が平成10年度と比較して全般的に増加している（第1-1-23図）。

第1-1-22図 子ども頃の体験と大人になってからの意欲・関心等の関係



資料：独立行政法人国立青少年教育振興機構『「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」報告書（平成22年10月）』より作成

第1-1-23図 青少年の自然体験への取組状況（次の自然体験について「ほとんどしたことがない」割合）



資料：独立行政法人国立青少年教育振興機構『「青少年の体験活動等と自立に関する実態調査」報告書 平成21年度調査』より作成

また、平成20年度全国学力・学習状況調査によると、自然の中での遊びや生活体験等の体験活動の状況については、小学生と比較すると、中学生の「何度もあった」と回答している割合はやや低くなっている（第1-1-24図）。

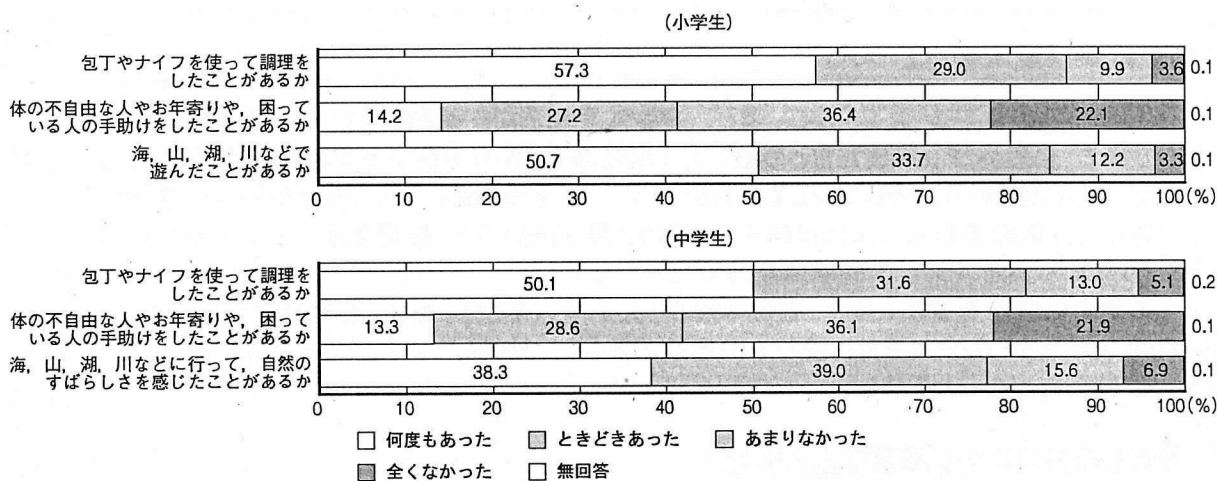
2 子ども・若者の体験活動の機会の提供

子ども・若者に様々な体験活動の機会を提供する青少年教育施設について、国立青少年教育施設は28施設、公立の青少年教育施設は1,101

施設である。公立の青少年教育施設は、平成17年に比べ、16.6%減少している（第1-1-25図）。

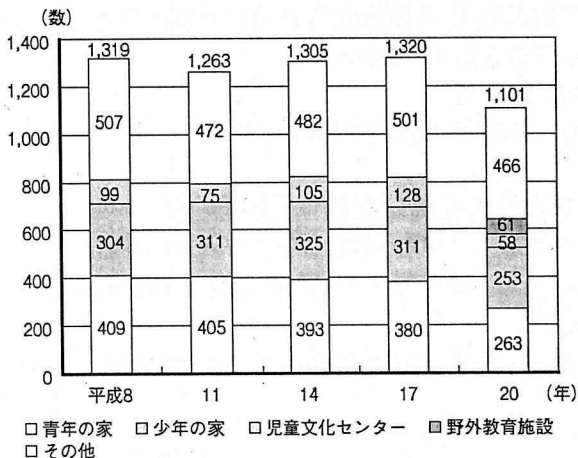
また、様々な体験活動の機会を提供する子ども会やボーイスカウト、スポーツ少年団等の青少年団体への所属については、小学5年生で最も高く、高校生で最も低くなっており、男女別に見るとすべての学年で男子が女子を上回っている（第1-1-26図）。

第1-1-24図 遊びや体験活動の状況に関する割合



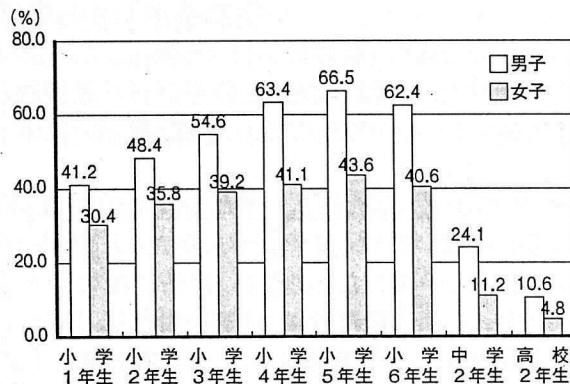
資料：文部科学省「平成20年度全国学力・学習状況調査」

第1-1-25図 公立の青少年教育施設数の推移



資料：文部科学省「社会教育調査報告書」

第1-1-26図 青少年団体への所属状況



資料：独立行政法人国立青少年教育振興機構「『青少年の体験活動等と自立に関する実態調査』平成21年度調査」より作成